

社会福祉学会は資格や専門職養成にどのように関与するか？

今期は、上記テーマで5名の会員にお集まりいただき実施した座談会を5回に分けて連載します。座談会は、上記テーマについて学会における議論を拓くことを目指し、ざっくばらんに話すことを趣旨としています。明確な結論を出すようなものではありません。会員間、学会のなかで議論を深める一助になればと願っております。

座談会にお集まりいただいたメンバーと、当日参加した広報員のメンバーは下記のとおりです。お忙しいなか、ご快諾、ご参加くださった会員の先生方に心よりお礼申し上げます。(敬称略)

登壇者：石川時子(関東学院大学)、口村淳(岡山県立大学)、菱沼幹男(日本社会事業大学)、
三輪清子(明治学院大学)、渡辺裕一(武蔵野大学)
司会・広報委員会：岩永理恵(日本女子大学)、有村大士(日本社会事業大学)、任セア(立教大学)、
大澤朋子(実践女子大学)、片山寛信(北海道医療大学)

第1回：趣旨説明と自己紹介

岩永：本日は、社会福祉学会は資格や専門職養成にどのように関与するかというテーマで座談会を実施できればと考えております。ニュースレターに掲載しますので、論文というよりは、気軽に会員の方にお読みただけで、学会の議論を盛り上げていくようなものになればいいなというふうに思っております。個人的には、社会福祉士の資格制度、最近のカリキュラム改正が、社会福祉学の大学教員に及ぼしている影響は多大であると感じています。もちろん社会福祉士以外の資格制度の流れもありますし、そもそも専門職養成がどういうことなのかとか、専門職にならなくても社会福祉関連の業務に従事していく学生・卒業生は沢山います。社会福祉学の界限で、どういう人を育てていくか、そこに学会がどのように関与するかというような、大きなテーマで先生方が普段お考えのことをお話いただければありがたいなと思っております。最初に、お一人ずつ自己紹介とテーマに関するご発言を軽くしていただいて、広報委員の先生にも自己紹介していただき、皆さんでディスカッションするというような形で進めたいと思います。

石川：関東学院大学の石川です。私は岩永さんと学部が一緒で、学部卒業した後、公務員のソーシャルワーカーをやったんですけど、そのときと給与水準がほとんど変わってないというのが結構、今、厳しいなと思ってます。そのあと大学院行って、日本女子大、関東学院大学と経験しております。専門はソーシャルワークと、あと社会福祉学概論を担当しております。どういうふうに口火を切るかで、結構話

の流れを持っていってしまうのが難しいのですが、このテーマをいただいたときに学会、ソ教連、社会福祉士会など専門職団体の三つの立場が混乱する部分があります。どれにも足がかりがある感です。職場環境が悪い、給与が低い、続けるのが大変というので、学生のときにモチベーションを維持していた学生(卒業生)が、就業継続できないのは大変もったいないというのを、どういうふうに私は考えるべきなんだろうと、前の大学にいたときから悩ましく思っています。採用条件と実際に働いてみた手取りがかなり違う、実際の手取りは少ないとなって、3年目ぐらいで辞める方たちの相談に乗っています。学会というよりはソ教連の立場になるのかもしれないんですけど、就労条件に関してどういうふうに先生として関わるべきなんだろうなっていうことを悩ましく、いつも思っています。

口村:岡山県立大学の口村と申します。よろしくお願ひします。大学に赴任したのが3年前で、それまでは特別養護老人ホームで25年ほど勤めておりました。今日ご参加の先生方の中では、一番教員としての経験が浅いと思っております。今回のニューズレターのテーマの「社会福祉学会は資格や専門職養成にどのように関与するか」ということで、私は、人に興味があります。社会福祉学会を支えているのは誰かという、大半が大学の先生方だと思います。大学の先生方のお仕事は、メインは授業や研究であり、それから学内業務があります。これらは予想できていたのですが、大学で働いてみて分かったもう一つの柱があって、それは国家試験の合格率をいかに上げるかです。これは裏の命題みたくなっていて、やっぱりすごくプレッシャーがあると。おそらく新任の先生、助教、講師、准教授の先生あたりは、特に上司からそういうことを言われているのではないかなと感じました。私は教員経験が浅いので、各大学における国家試験対策の実態を調べてみました¹。中国、四国地方には専門学校を除き22の大学があって、それらの大学の先生方にアンケート調査をお願いしました。ちょうど半数の11の大学の先生方から国家試験対策講座に関するご回答をいただいて、そのデータを基に論文を作成したという経緯があります。

菱沼:皆さん、おはようございます。日本社会事業大学の菱沼です、よろしくお願ひします。私の専門は地域福祉、中でもコミュニティソーシャルワークを専門にしています。もともと社協職員やデイサービスの生活相談員をして現場にいたんですけども、社協のときは地域支援、デイのときには個別支援をしていました。そこで感じたのは個別支援者と地域支援者がどうも結びつきにくいということなんです。当時はまだまだ社協による個別支援のところ弱く、地域支援にしても、地域の方々がやりたいことを応援するけれども、それは一人一人の生活ニーズに向き合っているだろうかという思いがありました。一方でデイとか、個別支援の現場に行くとい生懸命やってるんですけども、利用者の方々が暮らしている地域にどうアプローチするかという視点が、そもそも職員の中にないんです。自分たちのサービスの枠の中で、どう支援するかにとどまっている。個別支援の立場だと、地域に対するアプローチという視点もないし、ノウハウもないというところで、どうしたら個別支援と地域支援を結びつけられるだろうかと思うようになり、個別支援と地域支援を結びつけるコミュニティソーシャルワークにいたるところです。私自身は、いろんな地域の行政や社協のほうに関わりがあるので、現場の方々と接点も多くある中で、いろいろ調査をやってみたんです。その中では地域支援の弱さみたいなものも出てきています。実際現場の中でどういったことが起きているのか。さっき石川先生もおっしゃったよう

¹ 口村淳・大倉高志(2024)「社会福祉士国家試験におけた受験対策講座の実施状況と運営の課題：中国・四国地方における社会福祉士養成大学への質問紙調査」『岡山県立大学教育研究紀要』8(1) 1-10.

に人材確保とか、体制の問題があり、もう一つは、スキルの問題のところもありまして、少し論点を整理しながら整理していけるといいのかなと思っています。今日、どうぞよろしくお願いします。

三輪: 明治学院大学の三輪です。里親に関することを研究しています。狭くは里親、社会的養護の子どもたち、広くは児童福祉、社会福祉士養成の実習分野では児童分野を持っています。子どもの分野ということで呼んでいただいたと思いますが、子どもの分野の先生方も、いろいろなご意見があり、見解は異なるだろうという意味では、私で大丈夫かなというところはございます。大きなテーマでどのように考えればいいのか、まだ整理がついていない中ではあります。ただ子どもの分野のほうは、割と他の、例えば高齢とか、障害の分野などに比べて、ソーシャルワークの視点というのが遅れて入ってきたというか、なかなか入りきれてなかったような部分があるのかなとは思っています。たとえば、児童養護施設の実習では、なかなかソーシャルワーカーとして分離したお仕事というのを学ぶのは難しい。個別の子どものケアワークに終始しているようなところがあります。もちろん児童養護施設の中でもソーシャルワークの視点で子どもを理解したり、子どもの家庭復帰に取り組んだりされているけれども、実習の中でそれを学ぶのが難しいという意味です。実習の中で、個別のケアワークだけでなくソーシャルワークという部分が、学生に、ダイレクトに響いてくる場面というのを、取り入れていくのがとても難しい分野なのかなと感じています。まずは子どものケア、子どものケアワークは、とても大事なところなので、ケアワークをやりつつ、いわゆる家庭調整なども教えていただけるようになったのが、やっと最近かなというような、そのような手ごたえを感じているところです。

*次号では、自己紹介の続きから議論へ入っていきます。ぜひ次号もご覧ください。